

# CASBEE®-建築(新築)

## 評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版、CASBEE埼玉2016年版 使用評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2016(v2.1)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)朝霞市根岸台三丁目計画 新	階数	地上8F 地下1F
建設地	埼玉県朝霞市根岸台三丁目1番20、	構造	RC造
用途地域	商業地域、防火地域	平均居住人員	636 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	集合住宅、	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2021年3月 予定	評価の実施日	2019年7月3日
敷地面積	10,139 m <sup>2</sup>	作成者	横内 浩史
建築面積	2,983 m <sup>2</sup>	確認日	2019年7月3日
延床面積	17,139 m <sup>2</sup>	確認者	横内 浩史



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)	2-2 ライフサイクルCO <sub>2</sub> (温暖化影響チャート)	2-3 大項目の評価(レーダーチャート)
<p>BEE = 1.5</p> <p>S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★</p>	<p>標準計算</p> <p>30%: ★★★★★ 60%: ★★★★★ 80%: ★★★★★ 100%: ★★★★★ 100%超: ★★★★★</p> <p>このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです</p>	

2-4 中項目の評価(バーチャート)		
<p>Q 環境品質</p> <p>Q のスコア = 3.3</p>		
<p>Q1 室内環境</p> <p>Q1のスコア= 3.6</p>	<p>Q2 サービス性能</p> <p>Q2のスコア= 3.2</p>	<p>Q3 室外環境(敷地内)</p> <p>Q3のスコア= 3.1</p>
<p>LR 環境負荷低減性</p> <p>LR のスコア = 3.4</p>		
<p>LR1 エネルギー</p> <p>LR1のスコア= 3.7</p>	<p>LR2 資源・マテリアル</p> <p>LR2のスコア= 3.2</p>	<p>LR3 敷地外環境</p> <p>LR3のスコア= 3.4</p>

3 設計上の配慮事項		
<p>総合</p> <p>当該敷地の南側には戸建群があり、それらが創り出す風景と同化しつつ、この地の新しいシンボルとなるような有機的なランダムさを取り入れた外観デザインとした。敷地外周には十分な緑量を持たせることで、地域に緑と潤いをもたらせるように配慮した。</p>		<p>その他</p> <p>特になし</p>
<p>Q1 室内環境</p> <p>・住戸の採光・換気・室温維持及び内装材を適切に計画し、快適で安全な室内環境の創出に配慮した。 ・複層ガラスを採用。</p>	<p>Q2 サービス性能</p> <p>歩行者、自転車と車、バイク利用者を歩車分離し安全、使いやすいに配慮した。</p>	<p>Q3 室外環境(敷地内)</p> <p>事業上の必要駐車台数を確保しながら極力平置き駐車場を多く計画し、外周には生垣を設け敷地外からの見え方に配慮した。</p>
<p>LR1 エネルギー</p> <p>・住宅性能表示基準断熱等性能等級4を取得予定。 ・エコジョーズを採用することで、エネルギーの消費削減に努めた。 ・太陽光発電設備の設置。 ・共用部全てにLED照明の採用。</p>	<p>LR2 資源・マテリアル</p> <p>解体時におけるリサイクルを促進する取り組みとして、躯体と仕上げ、内装材、設備等が容易に分別できるように設計している。</p>	<p>LR3 敷地外環境</p> <p>駐輪場を200%確保し、敷地内駐車場を土地利用上可能な範囲で多くとり、敷地外への駐輪や自動車利用の抑制に對して配慮した。</p>

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

**CASBEE-建築(新築)2016年版、CAS (仮称)朝霞市根岸台三丁目計画 新築工事**

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版、C ■評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2016(v2.1)

欄に数値またはコメントを記入

スコアシート		実施設計段階		環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体
<b>Q 建築物の環境品質</b>										<b>3.3</b>
<b>Q1 室内環境</b>							0.40		-	<b>3.6</b>
<b>1 音環境</b>						<b>2.0</b>	0.15	<b>3.1</b>	1.00	<b>3.0</b>
1.1 室内騒音レベル						<b>3.0</b>	0.50	<b>3.0</b>	0.50	
1.2 遮音						<b>1.0</b>	0.50	<b>3.3</b>	0.50	
1 開口部遮音性能						1.0	1.00	3.0	0.30	
2 界壁遮音性能		界壁遮音性能Dr-50を確保。				<b>3.0</b>	-	4.0	0.30	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)						<b>3.0</b>	-	3.0	0.20	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)						<b>3.0</b>	-	3.0	0.20	
1.3 吸音							-	<b>3.0</b>	-	
<b>2 温熱環境</b>						<b>2.2</b>	0.35	<b>4.0</b>	1.00	<b>3.8</b>
2.1 室温制御						<b>2.2</b>	0.50	<b>4.0</b>	1.00	
1 室温						3.0	0.63	-	-	
2 外皮性能		住宅性能表示 断熱等性能等級4を取得予定。				1.0	0.38	4.0	1.00	
3 ゾーン別制御性							-		-	
2.2 湿度制御						<b>1.0</b>	0.20	-	-	
2.3 空調方式						3.0	0.30	-	-	
<b>3 光・視環境</b>						<b>2.5</b>	0.25	<b>3.2</b>	1.00	<b>3.1</b>
3.1 昼光利用						<b>4.2</b>	0.30	<b>3.5</b>	0.50	
1 昼光率		共用部:3.3%、住居部:1.6%				5.0	0.60	4.0	0.50	
2 方位別開口							-	3.0	0.30	
3 昼光利用設備						3.0	0.40	3.0	0.20	
3.2 グレア対策						<b>2.0</b>	0.30	<b>3.0</b>	0.50	
1 昼光制御						2.0	1.00	<b>3.0</b>	1.00	
3.3 照度						<b>3.0</b>	0.15	-	-	
3.4 照明制御						<b>1.0</b>	0.25	-	-	
<b>4 空気質環境</b>						<b>4.2</b>	0.25	<b>4.2</b>	1.00	<b>4.2</b>
4.1 発生源対策						<b>5.0</b>	0.60	<b>5.0</b>	0.63	
1 化学汚染物質		ほぼ全体的にF☆☆☆☆を使用。				5.0	1.00	5.0	1.00	
4.2 換気						<b>3.0</b>	0.40	<b>3.0</b>	0.38	
1 換気量						3.0	0.50	3.0	0.33	
2 自然換気性能						<b>3.0</b>	-	3.0	0.33	
3 取り入れ外気への配慮						3.0	0.50	3.0	0.33	
4.3 運用管理							-		-	
1 CO <sub>2</sub> の監視							-		-	
2 喫煙の制御							-		-	
<b>Q2 サービス性能</b>						-	0.30	-	-	<b>3.2</b>
<b>1 機能性</b>						<b>2.2</b>	0.40	<b>3.8</b>	1.00	<b>3.6</b>
1.1 機能性・使いやすさ						<b>3.0</b>	0.40	<b>5.0</b>	0.60	
1 広さ・収納性						3.0	-	3.0	-	
2 高度情報通信設備対応		インターネット用に1Gbitクラスのプロードバンドが利用可能。				1.0	-	5.0	1.00	
3 バリアフリー計画						3.0	1.00		-	
1.2 心理性・快適性						<b>1.0</b>	0.30	<b>2.0</b>	0.40	
1 広さ感・景観							-	3.0	0.50	
2 リフレッシュスペース							-		-	
3 内装計画						1.0	1.00	1.0	0.50	
1.3 維持管理						<b>2.5</b>	0.30	-	-	
1 維持管理に配慮した設計						3.0	0.50		-	
2 維持管理用機能の確保						2.0	0.50		-	
<b>2 耐用性・信頼性</b>						<b>3.0</b>	0.30	-	-	<b>3.0</b>
2.1 耐震・免震・制震・制振						<b>3.0</b>	0.50	-	-	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)						3.0	0.80		-	
2 免震・制震・制振性能						3.0	0.20		-	
2.2 部品・部材の耐用年数						<b>3.6</b>	0.30	-	-	
1 躯体材料の耐用年数		住宅性能表示制度 構造躯体劣化等級3を取得予定。				5.0	0.20		-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔						2.0	0.20		-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔						3.0	0.10		-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔						3.0	0.10		-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		給水PEP(B)、汚水排水VP(B)、雑排水VP(B) Eは不使用				5.0	0.20		-	
6 主要設備機器の更新必要間隔						3.0	0.20		-	
2.4 信頼性						<b>2.4</b>	0.20	-	-	
1 空調・換気設備						1.0	0.20		-	
2 給排水・衛生設備						2.0	0.20		-	
3 電気設備						3.0	0.20		-	
4 機械・配管支持方法						3.0	0.20		-	
5 通信・情報設備						3.0	0.20		-	

<b>3 対応性・更新性</b>		<b>2.8</b>	0.30	<b>2.8</b>	1.00	<b>2.8</b>
<b>3.1 空間のゆとり</b>				<b>2.6</b>	0.50	
1 階高のゆとり		-	-	3.0	0.60	
2 空間の形状・自由さ		-	-	2.0	0.40	
<b>3.2 荷重のゆとり</b>				<b>3.0</b>	0.50	
<b>3.3 設備の更新性</b>		<b>2.8</b>	1.00			
1 空調配管の更新性		3.0	0.20			
2 給排水管の更新性		2.0	0.20			
3 電気配線の更新性		3.0	0.10			
4 通信配線の更新性		3.0	0.10			
5 設備機器の更新性		3.0	0.20			
6 バックアップスペースの確保		3.0	0.20			
<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>		-	0.30	-	-	<b>3.1</b>
<b>1 生物環境の保全と創出</b>		<b>2.0</b>	0.30	-	-	<b>2.0</b>
<b>2 まちなみ・景観への配慮</b>	戸建て街区との一体開発の為、戸建て街区のストリートの先に、マンション計画の住棟と住棟の間から「空」が望めるよう景観に配慮し	<b>4.0</b>	0.40	-	-	<b>4.0</b>
<b>3 地域性・アメニティへの配慮</b>		<b>3.0</b>	0.30	-	-	<b>3.0</b>
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		<b>3.0</b>	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上		<b>3.0</b>	0.50	-	-	
<b>LR 建築物の環境負荷低減性</b>		-	-	-	-	<b>3.4</b>
<b>LR1 エネルギー</b>		-	0.40	-	-	<b>3.7</b>
<b>1 建物外皮の熱負荷抑制</b>	断熱等性能等級における等級が4相当。	<b>4.0</b>	0.20	-	-	<b>4.0</b>
<b>2 自然エネルギー利用</b>		<b>3.0</b>	0.10	-	-	<b>3.0</b>
<b>3 設備システムの高効率化</b>	[BEI][BEIm] = 0.90	<b>4.0</b>	0.50	-	-	<b>4.0</b>
<b>4 効率的運用</b>		<b>3.0</b>	0.20	-	-	<b>3.0</b>
集合住宅以外の評価						
4.1 モニタリング		-	-	-	-	
4.2 運用管理体制		-	-	-	-	
集合住宅の評価		<b>3.0</b>	1.00	-	-	
4.1 モニタリング		3.0	0.50	-	-	
4.2 運用管理体制		3.0	0.50	-	-	
<b>LR2 資源・マテリアル</b>		-	0.30	-	-	<b>3.2</b>
<b>1 水資源保護</b>		<b>3.0</b>	0.20	-	-	<b>3.0</b>
1.1 節水		<b>3.0</b>	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用		<b>3.0</b>	0.60	-	-	
1 雨水利用システム導入の有無		3.0	1.00	-	-	
2 雑排水等利用システム導入の有無		-	-	-	-	
<b>2 非再生性資源の使用量削減</b>		<b>3.0</b>	0.60	-	-	<b>3.0</b>
2.1 材料使用量の削減		3.0	0.10	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用		3.0	0.20	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	-	3.0	0.20	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	-	1.0	0.20	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材		3.0	0.10	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	LGS+ボードなど解体時に分別しやすい工法としている。	5.0	0.20	-	-	
<b>3 汚染物質含有材料の使用回避</b>		<b>4.0</b>	0.20	-	-	<b>4.0</b>
3.1 有害物質を含まない材料の使用	有害物質を含まない接着剤を採用。	<b>4.0</b>	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避		<b>4.0</b>	0.70	-	-	
1 消火剤		-	-	-	-	
2 発泡剤(断熱材等)	ODP=0.01未満かつ GWPが低い発泡剤を用いた断熱材等を使用。	5.0	0.50	-	-	
3 冷媒		3.0	0.50	-	-	
<b>LR3 敷地外環境</b>		-	0.30	-	-	<b>3.4</b>
<b>1 地球温暖化への配慮</b>	LCCO2 排出率=72%	<b>4.1</b>	0.33	-	-	<b>4.1</b>
<b>2 地域環境への配慮</b>		<b>3.0</b>	0.33	-	-	<b>3.0</b>
2.1 大気汚染防止		<b>3.0</b>	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善		<b>3.0</b>	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制		<b>3.2</b>	0.25	-	-	
1 雨水排水負荷低減		3.0	0.25	-	-	
2 汚水処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
3 交通負荷抑制	自転車及び自動車の利用に配慮した計画としている。	5.0	0.25	-	-	
4 廃棄物処理負荷抑制		2.0	0.25	-	-	
<b>3 周辺環境への配慮</b>		<b>3.1</b>	0.33	-	-	<b>3.1</b>
<b>3.1 騒音・振動・悪臭の防止</b>		<b>3.0</b>	0.40	-	-	
1 騒音		3.0	1.00	-	-	
2 振動		-	-	-	-	
3 悪臭		-	-	-	-	
<b>3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制</b>		<b>3.0</b>	0.40	-	-	
1 風害の抑制		<b>3.0</b>	0.70	-	-	
2 砂塵の抑制		1.0	-	-	-	
3 日照障害の抑制		3.0	0.30	-	-	
<b>3.3 光害の抑制</b>		<b>3.7</b>	0.20	-	-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	広告物照明なし。	4.0	0.70	-	-	
2 屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-	

# CASBEE埼玉県 重点項目シート

■使用評価ソフトバージョン

CASBEE埼玉県2016年版

## 1 建物概要

建物名称	(仮称)朝霞市根岸台三丁目計画 新築工事	BEE	1.5	BEEランク	★★★★
------	----------------------	-----	-----	--------	------

## 2 重点項目の評価

ライフサイクルCO2の削減のスコア		緑の保全・創出のスコア			
4.1	+	2.6	=	6.7	
重点項目の各スコアの合計点					
がんばろう 6.0未満	良い 6.0以上	非常によい 6.8以上	すばらしい 8.0以上		

## 3 重点項目についての環境配慮概要

<b>(1) ライフサイクルCO2の削減</b>		スコア平均	4.1
<CASBEE埼玉県の対応する配慮項目とスコア>			
LR3 敷地外環境対策	1. 地球温暖化への配慮	スコア	4.1
駐輪場を200%確保し、敷地内駐車場を土地利用上可能な範囲で多くとり、敷地外への駐輪や自動車利用の抑制に対して配慮した。			
<b>(2) 緑の保全・創出</b>		スコア平均	2.6
<CASBEE埼玉県の対応する配慮項目とスコア>			
Q3 室外環境(敷地内)	1. 生物環境の保全と創出	スコア	2.0
Q3 室外環境(敷地内)	3. 2 敷地内温熱環境の向上	スコア	3.0
LR3 敷地外環境	2. 2 温熱環境悪化の改善	スコア	3.0
事業場の必要駐車台数を確保しながら極力平置き駐車場を多く計画し、外周には生垣を設け敷地外からの見え方に配慮した。			

: 入力欄